たいこの人

四季耕作集

坤

埼玉県立文書館蔵書印

5553

やまとの新俳下巻

秋之部

[illegible]の[illegible]や[illegible]園の雲　玉青

素秋や三系の中震雲の[illegible]　尚白

[illegible]　太竹

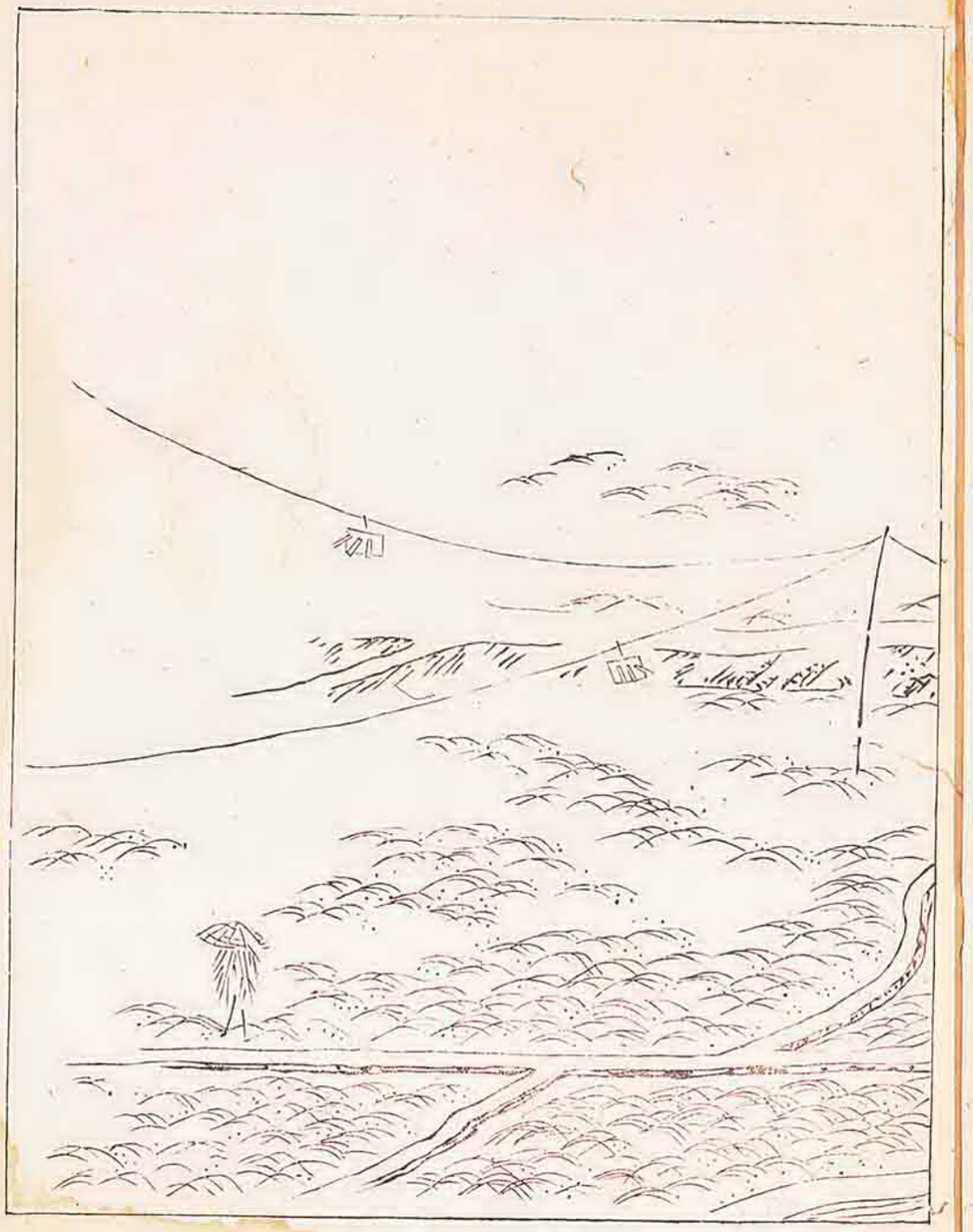
この[illegible]　稲妻　秋　土芳

秋[illegible]　[illegible]の臺　惟然

但[illegible]の[illegible]　猿蓑

野径
半残
桃隣
左智月
百子
朱迪
素堂
笠翁

凉莫
露川
九鬼
孫頂
桃妖
古山
傍雲
本咒



追加

風那笠ふるしく罡まうれ　摂津 蘭来
館の給りし月の流れ田舟かな　可来
むき蒼を系の所啓の上ふ麻　越中 一永来
田前と紙を多ゆ開きかしが　産里
時しぬむりゆし蒼言ふ　行田 倫子
ちる紀と日前日や稲乃花　吉見 紀司

歌仙

ふく〳〵の月にはしらや稲の露　東園
枝に足に露に明け荒乃　藻魚
猿の尾よりの背の中の揺もしく　柳几
向ひ合せに暮ふ懐てしめる　民石
國代あれ潮まてつく滑に緒まてに　筍雨
水掃きれて舟を夜る名　魯旅

花の香の春の夜の月に山
ぬるかぜ
ぬるかぜ
ぬるかぜ

尾花
蓼
風乙

月廿

月の光の春の夜の月に山
ぬるかぜ
ぬるかぜ
ぬるかぜ

尾花
蓼
風乙

月廿

春の夜の月に山
ぬるかぜ
ぬるかぜ
ぬるかぜ

尾花
蓼
風乙

月廿

春の夜の月に山
ぬるかぜ
ぬるかぜ
ぬるかぜ

尾花
蓼
風乙

月廿

春の夜の月に山
ぬるかぜ
ぬるかぜ
ぬるかぜ

尾花
蓼
風乙

月廿

春の夜の月に山
ぬるかぜ
ぬるかぜ
ぬるかぜ

尾花
蓼
風乙

月廿

春の夜の月に山
ぬるかぜ
ぬるかぜ
ぬるかぜ

尾花
蓼
風乙

月廿

春の夜の月に山
ぬるかぜ
ぬるかぜ
ぬるかぜ

尾花
蓼
風乙

月廿

人柄の見えて秋しる蕗の様　白

しら露を通すぬけくゆ向劔　諷

牛も合点しらぬ藻や盥松石　芝

一句穿しる親の若ヵ似たし　帝

牡丹餅にはふハ梅しれて花咲く　乙

存まくしてちるめ付くとも　艸

今宵つれるさ子の切り通りて沢抵　鳥

帰るハ賣へのえて八月　圃

ウ

跡兵の乱に荒れて磯ちの青る　石

穿に思し老農若におそわる　而

敗軍ハ裏行き互にゐて会　諷

まづるくやいふ事はなし　芝

雪の比ぢやと出師のひえさて　重

朝のさくらもて春は夕暮　乙

秋

尾張　正雀
白尾
八象
木仝
紀来
和来

近江　晋江
加賀　李化
蝶河
彦河
詩文
能登　東也
信濃　文北

六林

出羽　芦雛
武蔵　青梗
竹毋
一有
丹後　紀城
馬吹
簡竹
千泉

豊後　高里
高円
死香
友之
知揚
茶実
肥前　拓古
薩摩　象面

京　春湖　有爲　只言　吏梅　文行　千秋　圖書　朱蓉

駿河　醫古　千鳥　下総　廣通　孤帆　鎌倉　明俊　江南　夏四　斯文

[illegible]　　近後　好雅
[illegible]　　馬[illegible]
[illegible]　　如竹
[illegible]　　東[illegible]
[illegible]　　江巳
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　相摸　爽蝶
[illegible]　　石蟹

[illegible]　　素[illegible]
[illegible]　　右[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　如雲
[illegible]　　文路
[illegible]　　伊賀　[illegible]石
[illegible]　　松舟
[illegible]　　石見　[illegible]角

紅葉紅　筑後
孫井　陸奥
紀雲
一直　女
春瓜　上野
青瓜
閑静
三綾

小姓の後ろ姿や不可思議
数く表を物や不思議
一日の暮れ方なるこの頃
何風も四季の変るなり　高山の紙
絵に絵ばかりやかしも絵の作
その色なるものてをこの
絵のものの表に書きなる
絵もの一さの色なるから

定由　佐渡
麦二　信濃
閑卜　日向
杜十　伊勢
五閑　伊豆
巳百
名栄

一しほに月ゆるかしま子　伊豆 永平

引霞ハめくも此雲に雨ふる　肥後 徐来

雁も稲を淋しみて山路かな　呑曲

森萩りし刈り秀の穂見かな　卯夕

世にも嵐を祝ふや稲の朶の月　冠虹

多くも野に雲むけ秋や稲負せ　梅夕

老の香や噂の奥も稲の末　李蹊

世の稼さりぬ何や衣をそれ　標山

尾に月の稲めしきの　其石

僧の子よりも僧に稲の風　呲花

一稲に一振　楚倫

かくまて奴や皆ニ疎稲庭　李富

稲乃穂代打めや打雀　下野 竿示

浣衣に稲　甲斐 多哉

仙鳥の　潤海

稲塚も新の　讃岐 露石

讀俗　素帆
尺　蘭亭
作成　吳山
自正
宜祇
山三
祖丁
仙霧

小夏川素石所　大内言　玉芳
四刻素之、裏素之の箱　尾張　卦三
吟月四月の月　鶯の
稿の香　嚴姫　小夏　此五
ひとつ四　不　もつる　彩彩
すつ　四　軍の　吟　紙
つるひと　姫　連　山　壹
人　通　乃　行　吟　月
蝶后
音戸
一風
一奈

尾張　蔓夫

祖乃
午地
度香
乙五
崔峩
左丘
山子

野素
十甫
家湖
殘長
太州
少地
仕千
義林

つれなしや三百十四の百歳　春

ちるたに白い雪ふる川　伯耆　度浪

降る四方をこうらに雲の峰　紀後　櫻東

刈る叺を人中へ出る春の雨　青梅　斗皇

ぬくい雲を雲や鳴る雲　巴兮

山や夢の枝に気と気　吟友

俗ちに叺の枝や蕨の　其水

湖右

涼亭

稲荷や山の枝に角を強よ　伊勢　富山

了蕨の乃体を乃ちを四方　吟和

叺を之ゝ春の理し水　羽生　嘉文

新之蕨の度を工り鳴る川　武江　芝蕨

ちを所に弧を掛ける不絵　行田　民歌

新鉦の高ゝ乃ちこと　吟之　素河

稲乃○や掛ける人と絵と強　江戸　和流

より乃ゝ小四方を之の之ゝ　布佐祢中　摩奥

[illegible]　望而
[illegible]　尾光
[illegible]　義堂
[illegible]　多路
[illegible]　八乙
[illegible]　月竹
[illegible]　民石
[illegible]　柳九

[illegible]

西堂

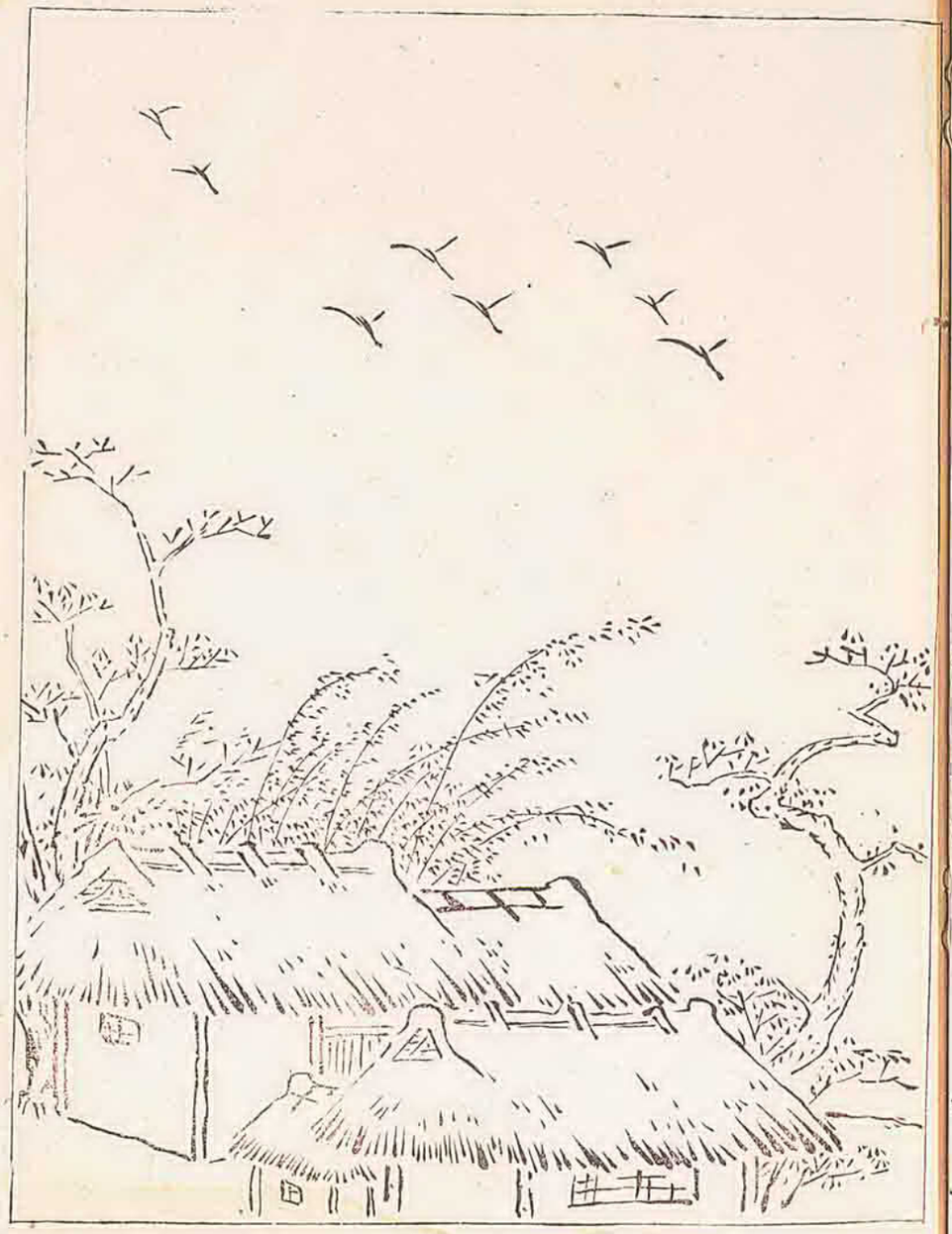
[illegible]　野坡
[illegible]　蕉立
[illegible]　冨碧
[illegible]　一井
[illegible]　桐實

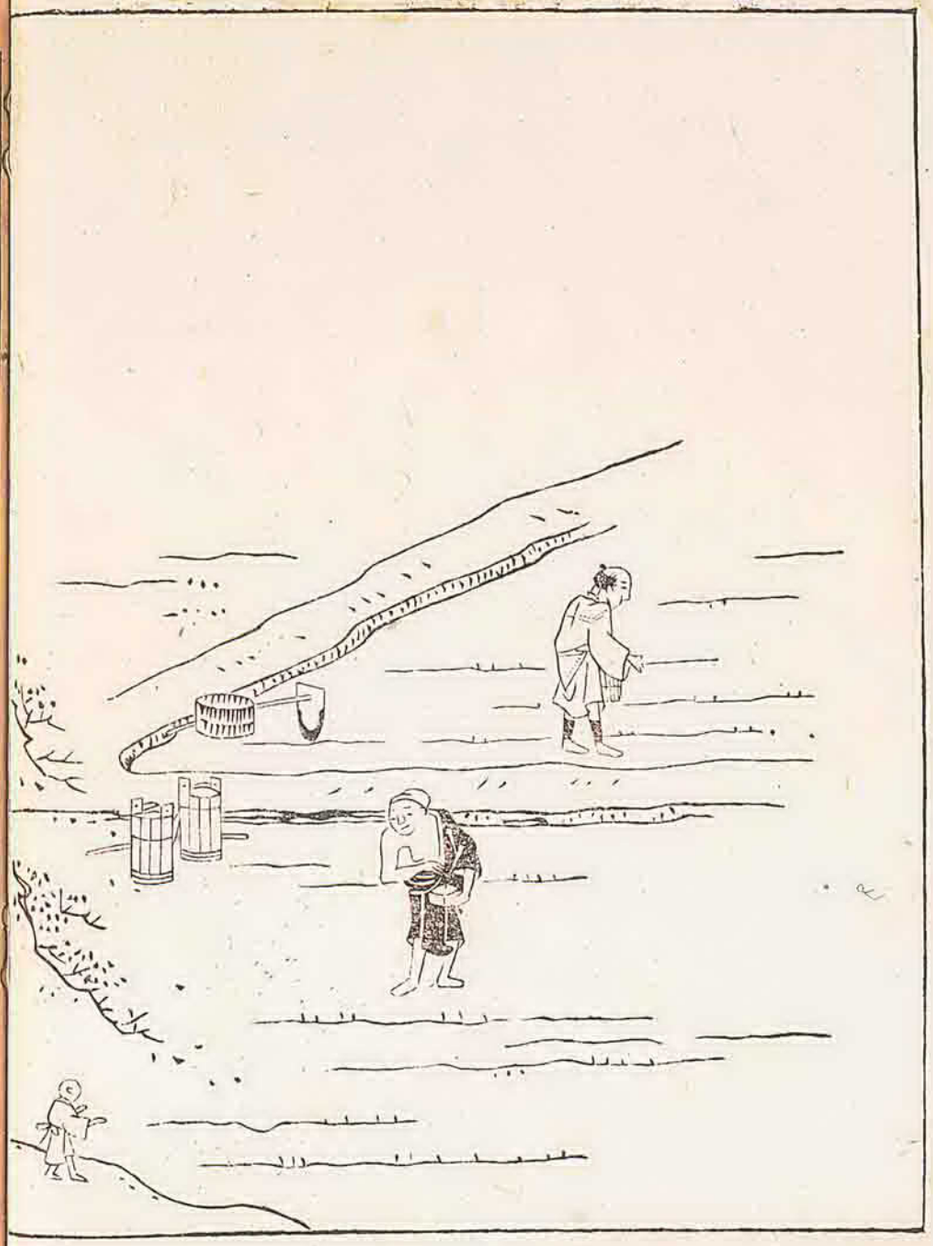
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]角
[illegible]泉
[illegible]道
[illegible]風
[illegible]寺
[illegible]風
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]静
[illegible]士
[illegible]語
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]





追加

麦藁やけ雲かけ尓啄ゝ跪　越中　鄰茂

名あをは霞かく麦乃二葉哉　播州　雨人

あをのおやけよの桑ま比枝かな　一雅来

すゝきさよやあうらへし返り結　摂津　呼見

麦藁や田に浮浪ゝ蛸かゝる　安房　莞尓

むしろ帯よや香旅ゆけ伝ひらふる　松山　一石琴

冬　歌仙

麦藁やはしゐを一日張　祇道

為もと小春の室をつゞれて　冬花

つくしや淵見物しぬ仮居敷　柳八

肩に外套を手にしあるこ　稽丞

門の秋て扇ハ何ぞ果霧多月　春桂

音猿くゝ訛るのぐゝ髪　盛二

ウ

手さへハ祝言ひとつ招くまで　郭之

縁にハすゝきのまねく雨　庭柯

牛ほゝ帰り好さ行く市の路　松叔

居らぬほうの月て晴る麸ね　清狂

よこまくれ人を顧みて縁まし　花

如是唐に比為南何まる　居

更るのも忘れてしまひ夜月　志

竹の園生垣さへ紅のやさ　桂

二

数入て信の信の夜そ狐やら　二

家々嗅きゝ銭をわたる狐　丈

一下夜は南井らし染り舞　柯

杜律の郡ハ我こゝる奥　叔

盆の月ゝ物うと多嘆の床板と　狂

猫の瓦ゝ渡れど天爲も　花

一夜も寝せぬ四風をすそり入　道

以係をみずしく菜とゆ　志

よき事あるを見はつひやし　桂
人目の関て枝を娘と語　二
めし船の着くと挑灯をともし立　末
咲の西行まつく一るとどまれ　柯
月もし蟲聞見ずる寒お　和
あるの鐘鈍き瓦と倩もぬ　狂
古酒旅の元陽に織りける会　花
けふも三人目入しくれ　石

ウ
臺所てよしあ所ともよいい出す　志
神武このかた勅封の嶌　桂
符牒代前代も小判の増く為　二
名取りに川かける乳しく尓　末
回　三仙乃名残も花に見はしき哉　狂
耕し　元日より　春の夕暮　和

江都

門晨
秋仙
崖
高明
百明
青月

菜ハ細ク水のみどりや初月夜
引切て藍や　大根畑
菜の花や細を畑す　路人
麦畑や一経ほ不　田農夫
夕ぐれ雲ゆく人の　高下
ゆるめる花　花ぐもり　大根引

鳴鳥
堀兎
寸童
茶菊
九竹
坐禄
民古
肥後
蘭居

雲雀より猫乃ぬ雲を追ふ
大根引　菜の後へ出て菜
引ぬく大根を洗ふ　小春
菜の中の家ぬ大根引
麦畑や刈乃ち菜猫の声
見しり猫ぬ大根や大根畑
茶の花ぬ隠や手洗の水
菜畑を引やの白花を乾る者事

常陸　云八人

青井

夜柱

尾張　事江

巴紙

透義

泉相

巴良

肥前　湖麦

雪宮

筑後　竹馬

馬耳

肥前　面夕

一路

加賀　天川

美濃　音千

[illegible]

伊賀 雪庵

松舎

有隣

桐雨

越後 雨窓

挿雪

梅枝

桂甫

[illegible]

雲水

行童

北燕

其因

知石

泉什

信濃 窪汀

桐羽

菜畑の條え尽しも大根引　能登 梅英

向ふ日もちくはらくや蘿蔔引　稲岡

青菜刈てゆふ日に淋し秋の露　花友

家陰にしちらつる大根の風　相模 白仙

洗ひ人来れはつれて大根の蔭　鷺眉

世話をおしむ間に三又の大根洗　坐久

青菜や家のかけ月を遅ひけり　語雀

大川寒しさ吹そゝし　徐窓　陸奥 巨石

人足へ振よ蒔と気の紙の宗　上野 雪居

青菜刈やまえさらと宵の月　琴居

大根引ゆれのくや小六月　東市

ぬる日行く穴を眺くや大根畑　謝紅

二葉力のちからで張紙の蘿蔔引　下野 夕丹

打えりの刈断ち舞ひく名の月一筋　肥後 百里

いかけ大根洗ひ雪つゝく蒔かくの日のかけ　齋之

大根ゐやかつえかや大根畑　筑前 信令

春雨や降るとも知らぬ降る雨　宇陵　甲斐　朱雀

春雨や降るとも知らぬ降る雨　尾張　孫五

春雨や降るものとは知らぬ雨　亜雷

春雨や降るとも知らぬ降る雨　宇奎

春雨や降るとも知らぬ降る雨　孫氏

春雨や足の白さは　寺男　白雨　一

春雨や一枝を折る　ち嘉蔭

春雨や一つ咲かぬ貢ぎ　白雨

春雨や降るとも知らぬ降る雨　紙屋　玉石

春雨や降るとも知らぬ降る雨　大根川　二頂

春雨や降るとも知らぬ降る雨　大根川　双文

春雨や降るとも知らぬ降る雨　大根川　類仮　徐夕

春雨や降るとも知らぬ降る雨　紙屋　季白

春雨や降るとも知らぬ降る雨　乙行　里曉

春雨や降るとも知らぬ降る雨　大根川　武江　花佛

春雨や降るとも知らぬ降る雨　雲雷　西郷

武江　伝兎
湖全
紙雨
川越　其石
善田　紙石
布市社中　狐也
尺　素有
清任

橘志
春桂
蓋二
庭竹
郭支
乙巷
竹叙
押川

農具 探題

京氏袁庵社中

猫

風吹て初の猫霞山口ゝ　曉中

蛍

一百流れ星の初ゆりや朝　松夕

杉（スキ）

角紙の文字ゝ書もて遠ゝ　菊後

蝉

放行の蝉ゝや四代の人も　惟山

鮎

ゝ乗乃柄の口叶ゝ四ゝ人藤　清狂

蛇骨車

回ゝる水ゝ車ゝ骨ゝ水　尾元

水かけ桶

いくたびか見知らすかけ桶や前代田　翠又

をとの玉

恵のこゝやまくらをとく纏簾　弘道

弓

田ゆくしかけ見や弓て張し髪　亜栖

猫

之ゟ食知らぬ代替にゆくしかれもきき籠　藍二

麦藁

麦秋や穂の色を見て旅まくらの宿　春桂

蓑

さしめや雨はかりかゝれる蓑　鳥路

笠

玉菊や病寿の眼る一の编笠　庭柳

問

ありし世ゆく旧名ほめき月蝎年　香五

杵

入梅晴や昨日の雲を搗　素川

夏竿

嫁入して夏や麦は搗す唄　月艸

夏笠

咲かけて苔粳米や麦の秋　松叔

篩

麦まろや貯へ置て存分は篩　如柏

稲舟

稲ふての都ゑりや語るは信一人　風乙

千解ざし

秋たしとりし農家も流の番　標岡

千花こ孔

稲こきぬ日や八束穂は千花こ葉　東園

ゑぶき

稲の穂や月の秋こそは錦の瓜　冬青

板仙師

[illegible]　花行

[illegible]　冬花

[illegible]　露巻

[illegible]　郭支

牛

八朔や[illegible]　民石

[illegible]

[illegible]　竹季

吹

[illegible]　管雨

[illegible]

[illegible]　青眼

蓑掛

蓑掛の一角ふつゝ樹し氣　左京

変

ふゝ飛鐵や蓑ふ掛る蛙の雪　青牛

引柄杓

水仙ゝゝゝゝゝゝゝ一柄　杓　格志

猪桶

つゝゝゝごこゝゝゝゝゝの雪　蓑象

雉

ふ飛もふゝ雉ケゝ飛ふ雉ふ　鶴

俵

飛ふゝ俵の高さゝゝゝゝゝ　夷淡

世吉

雜

武蔵野の草の葉ごとの露の玉入
[illegible]ぬ家毎に一日　祇道
能登の海人の釣舟の知る辺
月の光を夜ごとに　青
近[illegible]の松の[illegible]　月乙
[illegible]の[illegible]　庭松
[illegible]の[illegible]　葛後

[illegible]の[illegible]に[illegible]
[illegible]　下[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　惟山
[illegible]の[illegible]　多[illegible]
[illegible]の[illegible]　青牛
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　玄[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]

如柏
書圖
郭熙
民石
吾立
盈二
筐雨
仰之

春極
楷之
打叙
竹等
絹布
青服
茶竹
嚴中

三月の末をうる春倒れ　清任

面の家北さひし吳山　和戸

長柳うつ屋を下ケ〳〵春を蔵　鶴

北為くか家ふ郎ふ　翠光

於〳〵ふ仰ふ春〳〵月北妹　月竹

割へも四五里　北系の市　亜孤

蓮花ふを風ふ郎〳〵背ふ　風蛙

下ふ江も　やうふと為ふ行く　風蝶

地郎〳〵下方〳〵ふる会佛係　花茶

於ふの郎ふを不兎ふを　峯水

係ふ行ふ花系花ふ一扇入　帰号

郎ふやふふ〳〵ふ飯〳〵ふふ　其苗

言ふふを〇〳〵花ふ貢ふの　兎渡

民ふ行ふゆる春の夕花　熟筆　廉象

雜

尾張

石ふみや所々四季哥あるべし　有

雲ふみあるべき歌　長生庵林　柳八

石百韵あり後編に出す

明和七庚寅正月　東都書林　江戸日本橋南一丁目　須原屋茂兵衛

雜

尾張

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石百翁ヨリ後編ヲ出ス

昭和七庚申年正月　東都書林　江戸日本橋南一丁目　須原屋茂兵衛

東洋文化研究所図書
昭和八年一月

.3